

令和5年度第1回中央区緑化推進委員会 議事概要

【開催日】

令和5年12月15日（金）

【出席者】

学識経験者：鈴木委員長、木下委員

区民・事業者代表：岸本委員、中島委員、田中委員、吉山委員 区職員：三留委員、早川委員

事務局：水とみどりの課、(株)エイト日本技術開発

【配布資料】

- ・資料-1-① 令和4年度 中央区緑の基本計画進捗実績シート
- ・資料-1-② 令和4年度 個別施策の進捗実績 一覧
- ・資料-1-③ 令和4年度 個別施策の進捗実績 補助資料
- ・資料-1-④ 令和4年度 個別施策の進捗実績 案内図
- ・資料-2-① グリーンインフラチェックシートの運用開始について
- ・資料-2-② 桜川公園官民連携事業（P-PFI）の導入検討
- ・資料-2-③ 「中央区基本計画2023」水とみどりプロジェクトについて
- ・資料-2-④ 中央区水辺環境の活用構想
- ・参考資料 令和4年度第2回中央区緑化推進委員会 議事概要
- ・緑の基本計画 令和4年度の進捗実績について（資料-1）

	意見内容
鈴木委員長	<p>・緑の基本計画に緑の表彰制度の拡充を掲げている。表彰制度は活動団体を知ってもらい参加してもらうきっかけになり、当事者の励みにもなる。どのように充実を図っていくのか。</p> <p>→（事務局）現状で長く緑化活動に貢献していただいているボランティアの方に表彰する制度はある。今後、グリーンインフラチェックシートによって良い事例を積み上げ、継続期間なども含めて活動のモチベーションになる表彰制度を考えていきたい。</p>
中島委員	<p>・資料1-①の緑被率の推移と目標のグラフの横軸が等間隔になっているが、調査年次における推移をより正確に表すことができると良い。</p>
田中委員	<p>・街路樹の整備実績について、ハナミズキやヤマボウシなどを通りごとに一斉に植えているようだが、様々な種類を植えているわけではないのは、管理上の都合なのか。</p> <p>・銀座のヤナギは、水辺ではないから育ってくると折れてしまうものもある。</p> <p>→（事務局）樹種を揃えて街路景観を形成している。落ち葉などの苦情が多くなったため、常緑のヤマボウシを導入する路線が増えている。ヤナギについては台風などの強風により煽られることもあり、区の木ではあるが管理が難しい。</p>
中島委員	<p>・日本橋本町の路線では当初ハナミズキを区から提案されたが、日本の在来種が良いということで地元がこだわってヤマボウシを選んだ経緯がある。</p>

	意見内容
木下委員	<p>・資料1-①の19ページに民間施設における緑化助成の実績が伸び悩んでおり助成の見直しが必要というコメントがあるが、具体的に検討していることはあるか。</p> <p>→（事務局）緑化助成は、既存の樹木に対するものと、建物の新築などをする際の緑地整備に対するものがあり、緑地整備に対する助成の実績がない状況が続いている。また、グリーンインフラの普及が大きな課題だと考えているため、グリーンインフラチェックシートの実績などを見ながらどのように助成をしていけば区の緑が増えていくか検討していきたい。</p>
鈴木委員長	<p>・今年が緑の基本計画の5年目で折り返しの年になるため、これまでの実績としてうまくいっているのか、改善点はないか次回に見ていきたい。中央区は地区によって性格がかなり異なるため、地区ごとの緑の比率やボランティアの属性などから、よりきめ細かく、緑を充実していくための施策を皆さんと考えていきたい。</p>

・グリーンインフラチェックシートの運用開始について（資料-2-①）

	意見内容
木下委員	<p>・グリーンインフラチェックシートは、事業者が満たさなければならないチェックリストとしての運用ではなく、好事例の収集やグリーンインフラがどういうものなのか理解をより広める目的のものということであるが、その意図をどこかで説明できているのか。</p> <p>→（事務局）事業者に窓口で説明をしているほか、ホームページではチェックシートの記入例に示しているが、さらにわかりやすく意図が伝わるよう工夫していきたい。</p>
吉山委員	<p>・開発事業者としては、グリーンインフラという言葉を知らない社員はいないと思うが、どうやっていけばよいかわからない中、具体的にチェックシートに示してもらい、ありがたい仕組みだと思う。</p>
岸本委員	<p>・小規模な開発事業においては、設計事務所がランドスケープに関しても自分たちで落とし込んでいかなければならず、また小さな面積でこれに取り組んでいくのは施主の了解を得るのが課題となる。そのため、チェックシートがノルマとしてのものではないことや、グリーンインフラの目的をきちんと伝えていくことが大事である。</p>
田中委員	<p>・ビルの屋上でミツバチの蜜源を作る目的で苗を植える活動を行っているが、銀座中学校の生徒や福島の中学校の生徒、区内の企業や銀座の街で働いている方々が参加し、すごく盛り上がる。緑を植えるということ以上に、人と人との交流が広がっていく、次世代の子供たちに繋がっていくことがすごく素敵なことだと思う。緑の整備規模に関わらず、このような事例を伝える表現の仕方があっても良いと思う。</p>
鈴木委員長	<p>・チェックシートにより事例が出てきているが、ガイドラインに示した4つの基本指針を達成するためには、1つのやり方にこだわることなく柔軟な形で取り組んでほしい。</p>

・公園の魅力向上に向けた官民連携について（資料-2-②）

	意見内容
鈴木委員長	<p>・（仮称）公園連絡会について資料-2-②に示される今後の検討の流れ（P5）に見当たらないが、これはどの段階から関与すると考えればよいか。</p> <p>→（事務局）（仮称）公園連絡会については公園運営について事業者と地域住民、行政等が情報・意見交換の場として設けるものであり、基本的には供用開始前後からの立ち上げになると考えているが、メンバーの組成などはある程度前段階から検討を始める必要があると考えている。</p>
木下委員	<p>・今回示されたスキームでの公園運営費用（使用料減免による＝公費を充当）の考え方について、地域のニーズを反映するなど区民に受け入れられるものとする必要がある。そのための（仮称）公園連絡会になるが、一方でそうした枠組みが事業者を受け入れられ</p>

	意見内容
	<p>るよう配慮していく必要もある。</p> <p>→（事務局）追加サウンディングの段階で今回の資料で示した枠組みは事業者にも提示している。権限などについては検討の必要があるが概ね受け入れられたと考えており、行政も事務局としてきちんと関与していく。</p>

・「中央区基本計画 2023」水とみどりプロジェクトについて、中央区水辺環境の活用構想について
 （資料-2-③、④）

	意見内容
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日本橋上空の高速道路の地下化や、みどりのプロムナード構想、築地市場跡地のまちづくりなど世界に発信していくようなダイナミックな展開になっている。これらにより、どのくらいの緑被率が見込めるのか。また、緑の基本計画も5年目で折り返しを迎えているが、次の展開をしっかり発信していく時期に来ているのではと感じている。 ・開発によって大規模なオフィスができることによって、コミュニティが切れていくような感じがしている。そこでグリーンインフラがあることによって、人の縁を繋げるような役割ができるのではないかと考えている。
三留委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区内においては東京、日本を代表するような重大プロジェクトが急速に進んでいる。現在、様々な事業がほぼ出揃い、実際に動き始めたところである。そのため、次の緑の基本計画の改定については、単年度ではなく2ヵ年ほどを費やすことも考えている。 ・グリーンインフラに関してもチェックシートやホームページなど今の資料は表現が硬いため、もっとイメージが付きやすいパンフレットなどがあるとよい。 ・今の開発では緑がふんだんに取り入れられているが、それがあれば良いというだけではなく、地域特性を考えなければならない。
鈴木委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区のまちを歩いていて街路樹なども良い雰囲気管理をしているという感想をもっている。緑の基本計画の理念にもあるが、新しく来た方も昔からいる方も、自分のいるところに誇りを持てる場所ができていくと良いと思う。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺環境の整備に関してどのようにこれを運営をしていくのか、ただ区が運営するのであれば、コミュニティの面でもったいない気がする。民間の力を借りながら考えてほしい。 ・日本橋川などの小さな河川では特に、水辺に向かった建物の建て方などの施策を考えていかないといけない。
岸本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺環境の整備は緑だけでなく防災の拠点にもなる。また、舟運の活用が大事であると思う。晴海から日本橋の舟運の運行が始まったが予約が必要であったり、まだ簡単には利用できない。身近なところから気軽に利用できる規模のものに少しずつでも進んでいくとよい。